

寺田池から播磨富士を眺めて

— 兵庫県加古川市 —

兵庫県但馬県民局朝来土地改良センター 合 田 弘

1. はじめに

表紙写真、写真-1 は、兵庫県加古川市平岡町にある寺田池から散策・ウォーキング時に「播磨富士」(高御位山, 304.2 m) を眺めて撮影したものである。



写真-1 トンボからはどう映ってるのやろか？

2. 寺田池の概要

寺田池は、加古川市で2番目に古い893年(寛平5年)ごろに築造された加古川市一の大きな農業用ため池である(写真-2)。

- ・貯水量：396,000 t
- ・貯水深：3.70 m
- ・満水面積：14.0 ha
- ・受益面積：10.0 ha
- ・堤高：5.65 m
- ・堤長：520 m



写真-2 ドローンより寺田池を一望

平成の大改修(平成18～21(2006～2009)年度)により遊歩道が整備され、隣接する「明神の森」も含めため池を一周(1,560 m)できるようになった。

今では、遊歩道はジョギング、ウォーキング、散歩、展望デッキや東屋は憩いの場として多くの方が利用している。

平成22(2010)年に「ため池百選」(農林水産省)に認定された。また、加古川市制60周年を記念に明神の森とともに「わがまち加古川60選」にも選定された。

3. 寺田池協議会の概要

(1) いなみ野ため池ミュージアム 兵庫県には全国で最も多い約38,000のため池があり、なかでも東播磨地域(明石市・加古川市・高砂市・稲美町・播磨町)は、県下で最大のため池や最古の記録が残るため池、絶滅危惧種が生息するため池など個性豊かなため池が多くあり「ため池王国」といわれるほどである。

兵庫県では「ため池王国・東播磨」を象徴する「ため池群と水路網」およびその歴史的・文化的資源を地域の資源として“守り、活かし、次代に継承する”ため、農業者のもとより、地域住民、企業、実践活動団体、教育関係者や行政など多様な主体の参画と協働のもと、地域全体を“まるごと博物館”とする「いなみ野ため池ミュージアム」を展開している。

多様な主体をネットワーク化する中間支援組織として「いなみ野ため池ミュージアム運営協議会」を平成19(2007)年度に設置し、ため池協議会^{注)}の実践活動の支援、イベント開催等普及啓発の実施などを行っている。

平成29(2017)年度の会員数は103団体(ため池協議会75団体、関係団体(教育関係、実践活動団体等)22団体、行政6団体)となっている。

(2) 寺田池協議会 ため池協議会の一つである「寺田池協議会」は、寺田池を「地域の財産」とし、農業用水源としての利用に加え、生活にゆとりとうるお

注) 「ため池協議会」とは、ため池管理者と地域住民・団体などで構成された維持管理、利活用、環境保全活動等を実施する組織。

いをもたらすため池として、また地域の人々のところを結びつなぐため池として保全・整備し、管理運営していくことを目的に平成 15（2003）年 9 月に設立された。

「寺田池協議会」は、新在家町内会および寺田池周辺の 17 町内会（約 5,500 世帯）と新在家および野辻の農会・水利組合を会員とする（平成 28 年 4 月現在）、規約に基づいた組織である。

運営委員会を中心に各活動の企画や準備などを行い、地域での活動組織や関係機関と連携しながら保全活動等を推進し、また、交流イベントは寺田池協議会設立時から協力関係にある「平岡・寺田池を語る会」と連携しながら実施している（写真-3）。

運営費は毎年度当初に運営費予算を寺田池協議会総会で承認後、会員より会費を徴収し協議会の運営に充てている。

寺田池協議会費は、平成 22（2010）年 4 月から 1 世帯 60 円となっている。



写真-3 「寺田池協議会」運営委員会

4. 寺田池協議会の保全活動等の概要

寺田池協議会の活動内容については、規約の目的に基づき行う「活動等に関する規程」に定められており、①施設の維持管理活動、②環境づくり活動、③交流活動、④普及啓発活動、⑤防災・減災活動などとなっている。

（1）ため池クリーン作戦（施設の維持管理活動）

寺田池の水管理および水面や構造施設（堤体・洪水吐・取水施設）の草刈り、点検、補修は必要に応じて農会・水利組合が行うことになっている（写真-4）。

寺田池の利活用施設（遊歩道・中島・芝生広場等）は寺田池協議会によって維持管理を行うことになっている。

利活用施設周辺のごみ拾いなどは輪番制で月 1 回担当町内会が持ち回りでを行い、ため池クリーンキャンペーンは年 2 回（6 月・10 月ごろ）協議会が主催して実施している（絵-1、写真-5）。



写真-4 長大堤体法面を乗用草刈機で



絵-1 姫路市在住の版画家岩田健三郎氏作
（寺田池のごみ拾い作業の様子）



写真-5 ため池クリーンキャンペーン

（2）さつま芋植付け・収穫体験（交流活動） 寺田池クリーンキャンペーンに併せて、新在家町内会および寺田池周辺の 17 町内会が一堂に会し（約 200 名）、交流イベントとしてさつま芋植付け・収穫体験などを寺田池ほとりの田んぼで近隣の兵庫大学、県立農業高等学校、平岡北幼稚園などと連携して実施している（写真-6、7）。

（3）水辺空間を活かしたイベント（交流活動） 寺田池協議会では、会員の新在家町内会および寺田池周辺の 17 町内会を対象に地域住民が気軽に参加できる水辺空間を活かした交流イベントなどを 8 月から 11 月にかけて開催している（写真-8、9）。



写真-6 寺田池協議会によるさつま芋植付け体験



写真-7 平岡北幼稚園と連携し収穫体験



写真-8 寺田池探検隊（ガガブタ観察会）



写真-9 さわやかウォーキング（歴史探索）



写真-10 寺田池発表会（岩田健三郎氏講演）

寺田池協議会では、1年間の活動報告と講演会などを組み合わせて年度末に「寺田池発表会」を開催している（写真-10）。

5. おわりに

兵庫県では平成27（2015）年4月に「ため池の保全等に関する条例」を改正，施行した。

条例ではため池の適正な管理の徹底に加え，ため池等の有する多面的機能の発揮の促進が明記された。

その先進的な取り組み事例である「寺田池協議会の保全活動」は協議会設立以来，地域での活動組織や関係機関と連携しながら“地域ぐるみ”で平成15（2003）年から毎年継続して実施している。

『地域で守ろう！寺田池！』をスローガンに寺田池協議会会長は「この寺田池が次世代に継承されることを願い行動していく」と語り気持ちを表したように，兵庫県では，ため池等の多面的機能の発揮の促進について広く県民の理解を得るとともに，今後ともその意識向上を促すため，啓発活動や情報発信など「ため池保全県民運動」として展開することとしている。

参考文献

- 1) いなみ野ため池ミュージアム運営協議会：東播磨ため池歳時記，兵庫県東播磨県民局（2018）
- 2) 兵庫県加古川流域土地改良事務所：寺田池のてびきー寺田池保全管理運営活動のすすめー，寺田池協議会（2011）
- 3) 寺田池協議会事務局：寺田池協議会ホームページ，<https://teradaike.com/>（参照2019年5月1日）
- 4) いなみ野ため池ミュージアム運営協議会事務局：いなみ野ため池ミュージアムー先人の遺産を次代の資産にーパンフレット，兵庫県東播磨県民局（2017）